

⑧ 弘前大学教育学部創立130周年記念「教育学部創立130周年記念庭園 “育ての庭”」
「青森県師範学校校歌歌碑」



平成18年（2006）9月30日、教育学部の西側緑地に、青森県師範学校を前身とする教育学部が創立130周年となることを記念して、弘前大学、教育学部、教育学部同窓会により「教育学部創立130周年記念庭園」の開設並びに「青森県師範学校校歌歌碑」が建立されました。

記念庭園の設計者は澁谷亨氏（有造景工房）で、「育ての庭」と命名され、地域の人々と学生が空間を共有する事によって、共に育むことをコンセプトに造られました。

歌碑には1番と5番の歌詞が刻まれていて、記念庭園の中に建てられました。校歌の作詞は『荒城の月』で有名な土井晩翠。作曲は青森師範学校弘前分校初等師範学科の卒業生である楠美恩三郎です。台座は岩木山麓の安山岩で、鯉ヶ沢町より寄贈されたものです。

〔引用文献〕

1. 弘前大学総務部総務課（編）（2006）. 弘前大学学报, 30, 3-4.
2. 弘前大学教育学部創立130周年記念事業実行委員会（編）（2006）. 弘前大学教育学部の130年—そして未来へ—.
3. 青森県師範学校同窓会・弘前大学教育学部（編）. 青森師範学校志, 32-33.



130周年記念庭園のデザインコンセプト

「育ての庭」

この庭園のデザインは地域の人々と学生が空間を共有する事によって、共に育む事をコンセプトとしています。地域に開かれた大学を目指す弘前大学と学部創立 130 年の歴史を大地に置き換え、そこから芽生えるコミュニケーションと沸き立つ新たなエネルギーを表現したものです。

3つのテーマ

1. 「創造」

高さの異なる四角錐に盛られた3つの芝山は、夢や希望が育つ様子を大地が段々と盛り上がる姿で現しています。

2. 「知恵」

コンクリート擁壁に囲まれた少し斜めに盛られた芝の部分は、大地（歴史）を切り取り、ページをめくるようにその中の物を読みとる姿を表現しています。

3. 「成長」

庭園全てを指しますが、特に縁台やベンチを備えた歌碑のある小広場部分は地域の人々も利用できるような明るく開放的なデザインとしています。この庭園は学生同士はもとより地域の人々との交流を促し、お互いに育みあう場としました。